

■ 概況

10/18~10/24のNYMEX・WTIは、66.43~69.17ドルの範囲で推移した。

10月25日は、米国株式市場の大幅反発を受けて、投資家心理が改善され、先物原油の買いにつながり、続伸した。ただ、サウジの増産観測や世界経済の減速懸念が上値を抑えた。12月限終値は前日比0.51ドル高の67.33ドルだった。

週末26日は、イラン制裁再開期限を11月5日に控え、中国がイラン原油輸入を縮小しているとの報道、イラクが北キルクーク油田からのイランへの原油輸送を停止する見込みとの報道を受け、3営業日続伸した。ペカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は875基(前週比2基増)と3週連続増加となったが、影響はほとんどなかった。12月限終値は前日比0.26ドル高の67.59ドル。

週明け29日は、株式市場や金融市場の世界的な不安定が続く中、ロシアのノバク・エネルギー相は同国が減産ないし生産凍結を行う理由はないと発言、また、ドル高・ユーロ安の進行に伴う原油先物の割高感から売りが先行し4営業日ぶりに反落した。12月限終値は前週末比0.55ドル安の67.04ドル。

30日は、米国株価の回復にもかかわらず、米国の対中関税第4弾の検討等世界経済の先行き不安やサウジ・ロシアの増産姿勢・翌日予定の米国原油在庫週報の積み増し観測等世界的な供給拡大懸念から、続落した。12月限終値は前日比0.86ドル安の66.18ドル。

31日は、EIA米国在庫週報で、原油は6週連続の積み増し

報告があり、また、ドル高・ユーロ安の進行に伴う割高感もあり3日続落、2ヶ月ぶりの安値を付けた。12月限終値は前日比0.87ドル安の65.31ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(12月渡し)は、前週75.70~78.90ドルの範囲で推移した。10月25日74.60ドル、26日75.10ドル、29日76.10ドル、30日76.20ドル、31日75.40ドルで推移した。

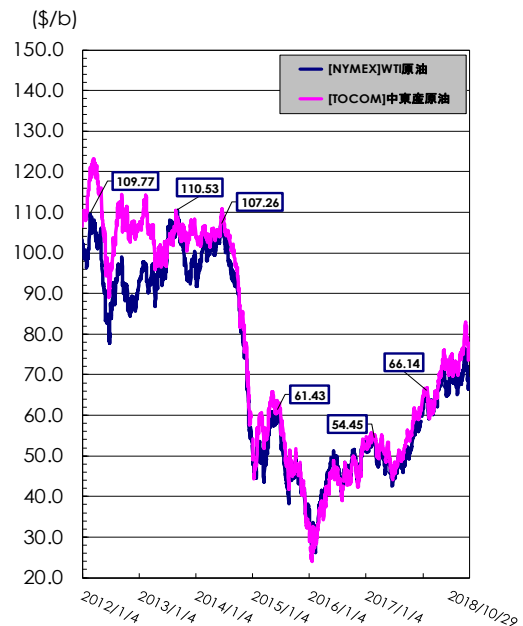
為替は、前週112.36~112.77円の範囲で推移した。10月25日112.02円、26日112.47円、29日111.96円、30日112.51円、31日113.26ドルで推移した。

財務省が30日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月上旬の原油輸入平均CIF価格は、54,371円/klで、前旬比1,176円高、ドル建てでは76.78ドルで前旬比0.92ドル高。為替レートは1ドル/112.60円だった。

主要元売会社の10月第5週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の値下げとなった。原油価格は値下がりし、為替レートもわずかに円高で、原油調達コストは値下がりとなった。

そのような中で、10月29日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.4円の値下がり、軽油も同0.3円の値下がり、灯油も同3円の値下がり(18㍻ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、9週ぶりの値下がりだった。この週(10月第4週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社2.5円の値下げだった。

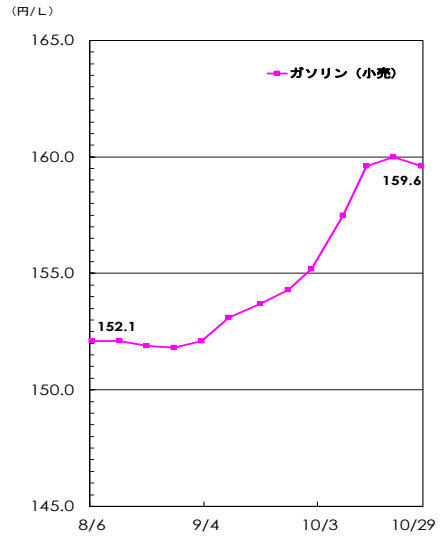
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/21 ~ 10/27	3,133 ▲ 210	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.0 ▲ 5.4	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/27	13,234 ▲ 814	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/29	74.94 ▼ -2.95	▲ 17.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/29	67.04 ▼ -2.13	▲ 12.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月上旬	76.78 ▲ 0.92	▲ 21.97
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	54,371 ▲ 1,176	▲ 15,623
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.60 ▼ -1.12	▼ -0.20
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/29	112.96 ▲ 0.53	▲ 1.82



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/21 ~ 10/27	913 ▼ -46	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	853 ▲ 16	▼ -	
	輸出	"	12 ▼ -22	▼ -	
	在庫	10/27	1,649 ▲ 47	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/23 ~ 10/29	72.0 ▼ -1.3	▲ 17.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/23 ~ 10/29	65.8 ▼ -5.0	▲ 10.5
		(TOCOM/中部)	10/29	66.5 ▼ -5.7	▲ 11.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/29	159.6 ▼ -0.4	▲ 23.8	

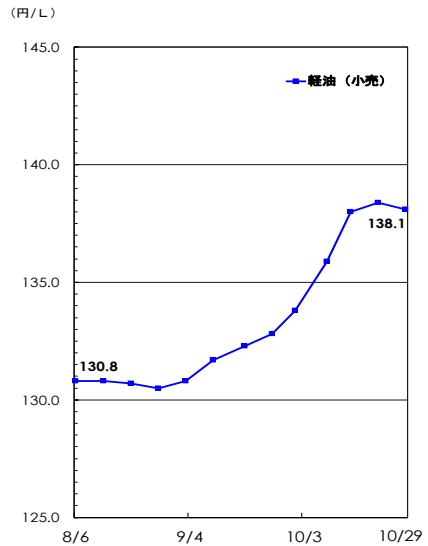
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

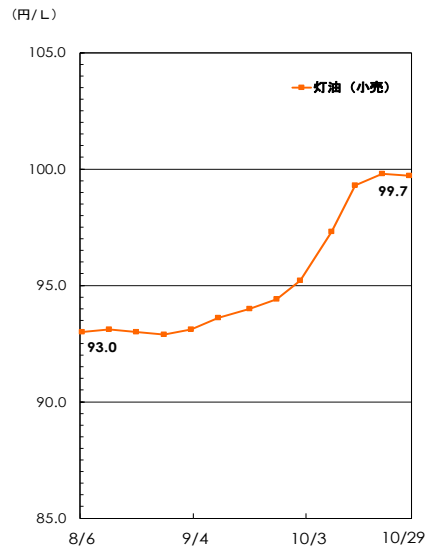
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/21 ~ 10/27	766 ▲ 125	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	647 ▲ 20	▼ -	
	輸出	"	91 ▼ -40	▼ -	
	在庫	10/27	1,461 ▲ 28	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/23 ~ 10/29	74.2 ▼ -1.2	▲ 20.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/23 ~ 10/29	73.2 ▼ -1.2	▲ 21.0
		(TOCOM/中部)	10/29	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/29	138.1 ▼ -0.3	▲ 24.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/21 ~ 10/27	253 ▲ 120	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	197 ▲ 116	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -74	▼ -	
	在庫	10/27	2,623 ▲ 56	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/23 ~ 10/29	73.2 ▼ -1.6	▲ 17.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/23 ~ 10/29	71.6 ▼ -2.5	▲ 15.4
		(TOCOM/中部)	10/29	72.0 ▼ -3.4	▲ 15.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/29	99.7 ▼ -0.1	▲ 21.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月31日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫は前週比320万バレル増と、市場予想(同410万バレル増)を下回り、ガソリン・中間溜分の在庫も320万バレル減・410万バレル減と予想を上回る取り崩しがあったものの、原油は6週連続で積み増しになったこと、さらに、ロシア・サウジ・米国の大幅増産の報道もあり、供給過剰感が膨らんだこと、また、ドル高・ユーロ安による原油先物の割高感が出たことから、3日続落した。12月限終値は前日比0.87ドル安の65.31ドル、1月限の終

値は前日比0.87ドル安の65.44ドルだった。

EIAによると、10月29日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.0セント値下がりの1ガロン2.811ドル(83.8円/ℓ)、ディーゼルは前週比2.5セント値下がりの3.355ドル(100.0円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは2週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年10月21日～10月27日に休止したトッパー能力は39.3万バレル/日で、前週に対して6.1万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は313.3万klと、前週に比べ21.0万kl増加。前年に対しては3.9万klの減少。トッパー稼働率は80.0%と前週に対して5.4ポイントの増加、前年に対しては1.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。

ガソリン/4.8%減、ジェット/34.7%増、灯油/89.8%増、軽油/19.5%増、A重油/2.1%増、C重油/42.5%減。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.3万kl増)。軽油の輸出は9.1万kl(前週比4.0万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではジェット、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は85.3万kl(対前週1.9%増)と前週比で3週振りで増加となり、8週連続で100万klを下回った。ジェット9.4万kl(対前週3.2%減)、灯油19.7万kl(対前週143.0%増)、軽

油64.7万kl(対前週3.2%増)、A重油18.6万kl(対前週4.8%減)、C重油22.9万kl(対前週31.0%増)。

(単位：千kl)

	今週 (10/21～10/27)	前週 (10/14～10/20)	前週比	
ガソリン	853	837	▲16	(2%)
ジェット燃料	94	98	▼-4	(-4%)
灯油	197	81	▲116	(143%)
軽油	647	627	▲20	(3%)
A重油	186	196	▼-10	(-5%)
C重油	229	175	▲54	(31%)
合計	2,206	2,014	▲192	(10%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月27日時点の在庫は、ジェット、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは164.9万kl、前週差4.7万kl増。前年に対しては7.2万kl多い。

灯油は262.3万kl、前週差5.6万kl増。前年に対しては6.4万kl多い。

軽油は146.1万kl、前週差2.8万kl増。前年に対しては9.8万kl多い。

A重油は73.2万kl、前週差4.3万kl増。前年に対しては4.2万kl多い。

C重油は199.9万kl、前週差10.7万kl減。前年に対しては3.2万kl少ない。

(単位：千kl)

	今週 (10/27)	前週 (10/20)	前週比	
ガソリン	1,649	1,602	▲47	(3%)
ジェット燃料	859	927	▼-68	(-7%)
灯油	2,623	2,567	▲56	(2%)
軽油	1,461	1,433	▲28	(2%)
A重油	732	689	▲43	(6%)
C重油	1,999	2,106	▼-107	(-5%)
合計	9,323	9,324	▼-1	(-0.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月23日から10月29日の原油価格は、引き続き、前週対比で大きく値下がりし、為替レートは横ばいで、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン125~126円台で値下がり後ほぼ横ばい、軽油73~75円台で値下がり後横ばい、灯油72~73円台で値下がり後ほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン125~129円台で

大きく値下がり、軽油73~77円台で大きく値下がり、灯油70~72円台で大きく値下がり後横ばいで推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン118~121円台で大きく値下がり後わずかに上昇、軽油72~74円台で大きく値下がり後わずかに上昇、灯油70~73円台で大きく値下がり後わずかに上昇して推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、2.0~2.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、全油種・全取引で大きく値下がりした。

11月第1週(11月1日~11月7日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月23日~10月29日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.3円の値下がり、灯油も1.6円の値下がり、軽油も1.2円の値下りだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが2.9円の値下がり、灯油も3.1円の値下がり、軽油は2.1円の値下りだった。

先物価格は、ガソリンが5.0円の値下がり、灯油も2.5円の値下がり、軽油も1.2円の値下りだった。

原油価格は大きく値下がりし、為替は横ばいで、原油コストは大きく値下がりした。

11月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも2.0~2.5円の値下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー4地区平均	今週 (10/23 ~ 10/29)	前週 (10/16 ~ 10/22)	前週比
レギュラー	72.0	73.3	▼ -1.3
灯油	73.2	74.8	▼ -1.6
軽油	74.2	75.4	▼ -1.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格	今週 (10/23 ~ 10/29)	前週 (10/16 ~ 10/22)	前週比
レギュラー	65.8	70.8	▼ -5.0
灯油	71.6	74.1	▼ -2.5
軽油	73.2	74.4	▼ -1.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/23~10/29実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.3	▼ -5.0	▼ -3.2
灯油	▼ -1.6	▼ -2.5	▼ -2.1
軽油	▼ -1.2	▼ -1.2	▼ -1.2
A重油	▼ -1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月29日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円安の159.6円、軽油も同0.3円安の138.1円、灯油は同0.1円安の99.7円(18%ベースでは3円安の1,794円)だった。ガソリンは9週ぶりの値下がり、軽油も9週ぶりの値下がり、灯油も9週ぶりの値下がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは9県、横ばいは6県で、値下がり32都道府県だった。全国最安値は埼玉県(155.1円(前週比0.2円安)、次が千葉県(156.0円(同0.1円安)、最高値は長崎県の168.5円(同0.3円安)であった。最も値上がりしたのは1.2円高の和歌山県(158.3円)、横ばいは滋賀・香川・高知・青森・奈良・宮

城の6県、最も値下がりしたのは1.9円安の愛知県(156.7円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、2.0~2.5円の値下げとなった。今週は、原油価格が大きく値下がりし、為替レートは横ばいで、原油コストは大きく値下がりした。次週(11月5日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) 週動向	今週 (10/29)	前週 (10/22)	前週比	直近高値
レギュラー	159.6	160.0	▼ -0.4	08/8/4 185.1
灯油	99.7	99.8	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	138.1	138.4	▼ -0.3	08/8/4 167.4

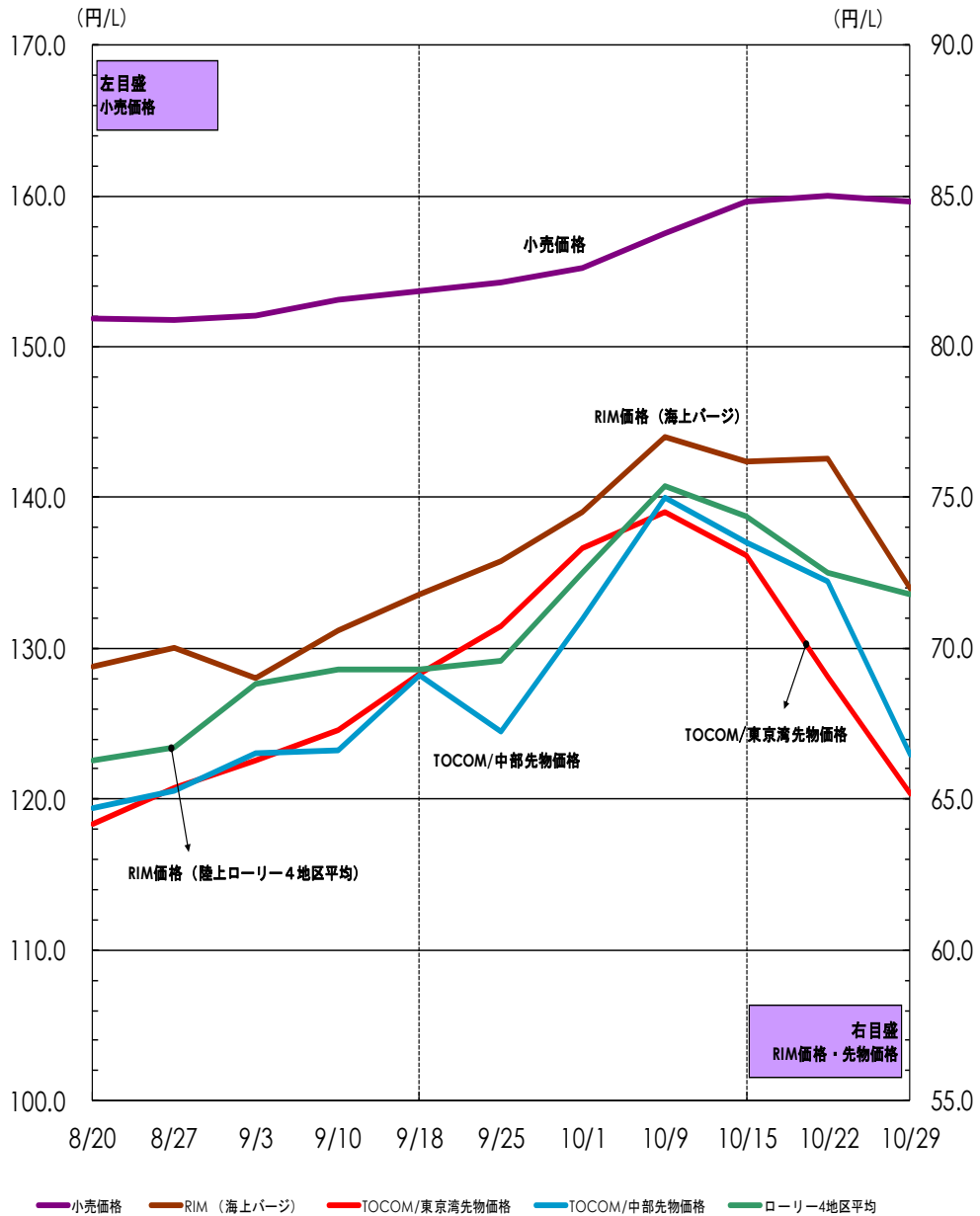
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/8/20 ~ 2018/10/29)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第30号)の公表は、11/9(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。